

## 第4期第5回生涯学習センター運営協議会要旨

〔日 時〕 2018年11月19日（月）午後3：00～午後5：00

〔場 所〕 生涯学習センター 学習室2

〔出席者〕 ※敬称略

委 員：柳沼 恵一（会長）、岩本 陽児（副会長）、太田 まゆみ、大野 浩子  
白崎 好邦、鈴木 忠道、陶山 慎治、辰巳 厚子、中里 静江  
向井 美子、米倉 茂  
以上 11名

事務局：塩田センター長、大野管理係長、松田事業係長、植松担当係長、齊藤主任（記録）

〔欠席者〕 古里 貴士 以上1名

〔傍聴人〕 1名

〔資 料〕 ・町田市生涯学習推進計画 2019-2023（案）（資料1）

- ・町田市教育プラン 2019-2023（案）（資料2）
- ・町田市公共施設再編計画【概要版】（資料3）
- ・第3回運営協議会で提案されたテーマについて（資料4）
- ・第5回・第6回生涯学習審議会会議資料（資料5）
- ・東京都公民館連絡協議会の活動報告について（資料6）
- ・第55回東京都公民館研究大会開催要項（その他）

### 1 報告事項

#### （1）センター長報告

##### ○第7回生涯学習センターまつりについて

10月19日（金）、20日（土）、21日（日）の3日間において開催した。開催のテーマは「つながる、ひろがる、はじまる、プラスワン」を掲げた。展示の部が19団体、発表の部が25団体、ワークショップが2団体、模擬店が1団体の合計47団体の参加があった。2017年度と比較すると、昨年度は3月に開催したので、準備期間が短かったこともあり、参加団体は6団体減少したが、3日間の来館者は1,217人で、来館者数は92人の増加となった。

運営協議会からは柳沼会長が企画・運営委員として、開催に向けご尽力いただいた。改めてお礼申し上げたい。

#### （2）町田市生涯学習審議会の議論について

10月22日の会議冒頭、7月の諮問を受け10月17日に「今後の市民文学館のあり方について」の答申を会長から提出したという報告があり、10月22日には今後の町田市立図書館のあり方についての諮問が出され、審議を始めた。異例のことではあるが、12

月の会議で検討を始めて、また答申を出すということになる。前回の文学館に関しては、審議会の中では最終確認が出来ず、事務局と正副会長に一任という形で報告が事後にあった。図書館に関しては、まず町田の図書館の概要を副館長からご報告頂いた。審議を始めるにあたって、事務局に資料を用意していただいて、公立図書館とは何かという基本から、法律の条文に基づき確認した。電子図書は安いという話が出たが、電子図書館というのを維持するのは、いかにコストがかかるかということについて資料を提示してご理解をいただいた。実際に私が視察に行ったこともある韓国の図書館や台湾の地下鉄といった海外の事例を提示し、魅力的な施設を作るためにはお金をかけているということがわかる。今後の町田市立図書館のあり方についての答申のイメージというのを事務局が用意し、資料の中で市民の利用登録者数と貸出の減少が示されたが、そもそも資料購入費が減少していることについても併記しないとフェアではないという意見が出た。これは、図書館に行って今まで見たことの無いような魅力的な本があれば皆借りるが、そういうものが減ってしまい、図書館に行っても同じ本しか並んでいなかったとしたら、という意味でフェアではない。

重要なことは、11月の会議の時に、分館閉鎖はやむなしという発言があり、それは違うのではないかとということを示し上げた。岡上地区の小さな公民館に図書コーナーを設けたところ、公民館を利用しに訪れたお母さん方がついでに図書を借りていく。そもそもの川崎の図書館が新百合ヶ丘にあり、また、和光大学の50数万冊の本が利用できる、さらに町田と相互利用協定を結んだおかげで、電車にのらなくても鶴川駅前図書館が使えるという恵まれた立地にあるにもかかわらず、行動圏の中に図書館があるとニーズが掘り起こされていくということがわかった。なので、資料で示されたような一律1.5キロ圏という見方はちょっとまずいのではないかと。図書館協議会の会長らと一緒に声をあげていくところである。11月の議論で図書館のお金がないのであれば、ネーミングライツを売ってお金を稼いではどうかという話も出たが、私としては基本的に忠実に体力をつけるようなことを事務局に期待したい。文学館から図書館についての議論を矢継ぎ早にやっているわけだが、いずれは生涯学習センターも議題に上がると思われる。21日金曜日の朝9時半から市役所であります。よろしくお願いいたします。

(意見・質問)

委員：電子書籍の価格の話についても一度伺いたい。

委員：一般の人が利用する分には電子書籍は安く手に入ると思うが、電子書籍の価格というのは著作権の問題があり、図書館等の公けの施設で供する場合はDVD等でもそうだが、定価の5割増し、2倍である。システムの初期費用・年間の運用費用・コンテンツ契約等非常にコストがかかるということ。

委員：文学館の諮問がでたということだが、存続・廃止について、どの様な結論になったのか。

委員：審議会委員の答申としては文学館を廃止するようなことは一言も出ないが、事務局の方で運営の仕方を指定管理にするとといった議論も念頭に置いているようである。

会長：10月22日の諮問についての回答期限は。

委員：12月中くらいに審議をして年明け頃に答申案を出す見込みです。

## (2) 都公連連絡協議会の活動報告

・主な活動として、10月2日(火)第3回役員会福生市、10月24日(水)第7回委員部会運営委員会町田市、11月6日(火)第4回役員会福生市に出席。

・第55回東京都公民館研究大会が2月3日(日)に開催される。申込みを期日までにお願ひしたい。委員部会として第4課題別集会を担当する。

・町田市は2020年に研究大会事務局を担当し、翌2021年には事例発表の担当市となる予定である。

<その他資料に沿って説明>

## 3 議題

### (1) 生涯学習推進計画の策定状況について【資料1～資料2】

<ポイント>

①「生涯学習推進計画」は、上位計画である「教育プラン」のアクションプランである。

・「生涯学習推進計画」(2019-2023)は、「教育プラン」(2019-2023)で定める「教育目標と基本方針(I～IVのうち、III・IV)を受け、それを実現するための施策と、課題解決に向けた取組からなり、教育プランで定めた「重点事業」を中心に生涯学習部全体で39の取組を定めている。

・生涯学習センターの取組項目はそのうち11である。この中には教育プランにおける重点事業と重なる項目が6つある。

②前回の計画と比較して編集の方針が大きく変更になった。

・「生涯学習推進計画」(2014-2018)は生涯学習部が所管する事業を網羅的に記載したが、「生涯学習推進計画」(2019-2023)は、(中略)今後5年間に重点的に推進していくべき取組を定めるものである。

③計画の推進にあたって

・計画の進捗管理は教育委員会の事務の点検及び評価や各附属機関等にご意見を頂き、適宜見直しを行いながら進める。

④今後のスケジュール

・年度内に作業部会(執筆を担うところ)を12月26日まで行い、1月9日に最終的な検討

部会（部・課長級）を持ち、作業を終了する。

・1月中旬には教育長の決裁を受け、2月1日に定例の教育委員会にて了承を得、3月1日に行政報告を行う。行政報告であるため、1月中には市長、副市長への説明も含まれる。

（質疑・応答）

委員：目標値の設定について。ホームページのアクセス件数等にあるような目標値はどのように定めたか。達成可能との判断からか。あるいは期待値か。何か統一した設定方法があるのか。

事務局：項目ごとにそこは一通りではない。予算的・人的なものを見て考えている。現在検討中のものもある。

委員：一つ質問と一つ提言と一つお願いである。ここで言う事業とは、一部の関心がある人の為の事業なのか、市民42万人に関心を持ってもらうための事業なのか。市民42万人に対してである、ということで良いか。それを確認したい。

事務局：そうである。

委員：次に提言をしたいと思う。

・【資料1】の12ページ下部の『生涯学習推進計画』は（中略）上記のとおり特定した課題を着実に解決するため、今後5年間に重点的に推進していくべき取組を定める…』という記載について、それぞれ表が出ているが、「上記のとおり特定」した「どの課題」を解決する為に、どのような取組をして解決するつもりなのか。そしてそれを評価するために「どのような活動」をするのかを定義した資料がなく、「年度目標」にどのような意味があるのか、全く感じられない。『推進計画』であるならば全ての表の中に「これまでの取組」に「これからの取組」という欄を加え「どのような課題」を「どのように解決」するために「どのように取組む」のか、年度目標がどのような意味をもつのかを記載していただきたい。

・22ページの学習情報の発信力の強化において、「学習情報に関するポータルサイトの構築に向けて検討しました。」の「検討結果」を見せていただきたい。それがないと、以下の取組目標が意味を持たない。

事務局：このことについては、今手元に資料がないので、お時間をいただいて回答をお出ししたい。

委員：この「推進計画」の中で市民大学はこの中のどこに位置するのか。

事務局：今回は経常的に継続していく事業については載せていない。ことぶき大学、市民大学は何ら低下するものではない。

委員：今まで運営協議会として市民大学について検討を重ねてきているのに、ここに載っていないということは、解体して新たなものを行うのかと思ったら、そういう記載もなかったのか、このまま何も検討せずに行うのか。それでは新しい計画にはならないのではないか。

事務局：検討しないということではなく、事業としては存在する以上は今後も必要な見直し

は図るが、特に計画には載せないということである。

会 長：事務局の回答は、12 ページにあるように「網羅的に記載」するのではなく、「特定した課題」の解決のために「重点的に推進」していく取組みを定めるということだが、それでは、市民大学についてこれまで問題はなかったのか、という点が委員の問題意識であり、事務局との齟齬がある。私自身も市民大学のあり方には問題があると思っているので、そこが抜けているのは不自然だと思う。

委 員：「市民大学」がこの中に入っていないということか。

委 員：「市民大学」や「ことぶき大学」は事業一覧としては持っているが、今回の計画には載っていないという意味であると思われるが、「載せるべきではないか」というのが委員の意見である。

委 員：市民がこれを見てどう思うか、である。

白 崎：従来、この計画に載らなかったものはどうなるのかということだ。

委 員：説明が欲しい。丁寧な補足が必要である。

委 員：これは重点計画ではなく、推進計画である。ここに全く載らないというのは「市民大学」として予算を削られる心配がある。大事な事は、市民に対してアピールする必要性があるだけではなく、内部に対してもネガティブな逆のイメージを与えてしまうことにならないかというのが心配である。

委 員：生涯学習部それぞれの機関（文学館、図書館等）の全体の総意で決めたことか。

事務局：生涯学習部全体の総意である。文学館も図書館も事業の全てを載せていない。一部の重点的取組を記載している。

委 員：その事を前提にして、活動指標を実数にしているものと、パーセンテージのものと混在している。

事務局：パーセンテージより実数の方が勝るであろうということで、実数で記載していけるかどうかを検討中である。

委 員：活動指標の数値の根拠があるはずだ。それが明確に示してあった方が良い。予算的に、というのでは説得性がない。市民に納得してもらえる数値を出すべきだと思う。

「アクセス回数」を指標にするのは再検討していただきたい。同じ人のアクセス数もカウントされてしまう。例えば、新規受講者率が何パーセント上回った、となればそれで普及率が図れる。何か新しいパラメータを入れていただきたい。

委 員：今回の計画は「課題解決」型を記載したということだったので、それは評価したいと思ったが、ここに記載されているものがさほど真新しいものが無い。

今までずっと継続してきたもの、例えば取組4-4「学習成果を活かす機会を充実する」のが「センターまつり」というのでは何十年も前から行われていることで、従来型であり新しいものを感じられない。地域の活動に還元できる何かを目指したいという項目であるのに、「センターまつり」はセンターの中のまつりであって、学習成果を地域に還元するという事にはつながらない。

次に、「ボランティアバンク」。これには当初から関わっているので非常に気になっているのだが、単に利用件数を増やすといっても、それは簡単には増えない。ボランティアは他にもいっぱいいるので、利用を増やすなら、学校や他の部署のボランティアとどういう風に連携するか、といったことを書かないといけない。これでは前回と同じである。地域に学習成果を還元するための、新たな切り口が掲げられていない。

これを「重点課題」とするのであれば、「ボランティアバンク」を周知するというのではなく、もっと他の展開を考える、違う発想が必要だと思う。ただPRすればいいという問題ではないのではないか。それは今まで何年もやってきた、それと同じやり方では広まらない。

「センターまつり」もそうだが、従来型と同じものを、そもそも「重点課題」に取り上げるべきなのか。

委員：第5章の「計画の推進にあたって」の「計画の推進管理」の部分で「なお、財政状況により、取組みの内容や工程表は変更することがあります」とあるが何か悪い方にとらえてしまうが。どのような計画にも入っている文言なのか。

委員：「財政状況」がいらぬのでは。未来のことなので一言入れるのはいいと思うが、「社会状況」でいいのではないか。

センター長：4～5年先のことはわからないが、おっしゃる通り「社会状況」である。

委員：この推進計画は重点計画を定めるということだが、市民大学については、どうお考えか。

センター長：どういう講座を行っていくかという部分については、市民大学については「プログラム委員」というのがいて、どのような講座をやっていくかを決めている。4～5年先にことぶき大学や市民大学の、例えば先ほど委員からご指摘があったような、参加者数をどうしていくかといったことは、描ききれてはいないが、経常的な予算をつけて行っていく事業であるので、漫然と同じ講座をやっていたのでは今の時代は受け入れられないので、常に課題は何かを考え講座を作っていくと、いうことは行っていく。

委員：それでは市民大学は2019年度の前期の変更には何も反映しないことになる。プログラム委員に対して、来年度はどのようにやっていくことを示していなければ、来年度に向けて動き出す時期なのでもう間に合わない。市民大学は、講座をやるだけで出口が見つからないというのが課題だったと思うが、それをどうするか、そのことについては生涯学習センターの内部では話し合いは行われなかったのだろうか。そちらで話し合われていなければ、何年話しても同じことを繰り返すことになるのではないか。

センター長：一部、例えばご提案をいただいて、座学形式から「探・探ゼミナール」という調べ学習の講座を始めて実際実行に移している。

市民大学の来年の講座はどう考えているのか？ということについては今はっきり

お伝えできるものは現状ではない。

委員：昨年度は「陶芸スタジオは終了する」ということだったが、変わらずやっているようだが。

センター長：市民大学の「陶芸講座」は行っていない。修了者団体が使用しているという部分はある。団体に入って3年間が在籍期間ということもあり、それまでは使用している状況である。他に前期と後期で講座の中で一部使用している。

委員：そういった部分的な事はあるが、今後の市民大学について内部で話し合われていないとしたら、残念である。

会長：ことぶき大学などで新しい試みがなされているという例のように、一部、我々委員の意見が取り入れられているという部分がある。市民大学についても、何かもう少し練られた案が、この場で話し合われて、新しいものに結びつくことが出来ればいいのだと思う。

次に我々の前期の報告書が一番反映されていると感じられるのが、26 ページの地区協議会との連携の部分だと思う、これについて委員からご意見をいただきたい。

委員：鶴川の取組みを取り上げて頂いてありがとうございます。地域づくりをしている立場としては、生涯学習センターは教育委員会ということで、他部署に比べて動きにくいのかなという印象はある。

鶴川地区は福祉ニーズに特化しようと、鶴川地区社協の設置に向けて今動いている。地区社協の本店所在地は鶴川市民センターの地域活動室の中に置く。そこに鶴川地区ボランティアセンターを置くということになった。また、生涯学習センターでもホームページの話題が出ていたが、鶴川地区協議会では、無料でダウンロード出来る地域アプリを作り、「鶴川の学び」というコンテンツを入れて、色々とアクセスが出来る取組みを考えている。そこには生涯学習センターが提供する事業だけでなく大学や各ご家庭の学びのコンテンツも入れて、色々な情報を提供して自由にアクセスしてもらい、その中での出会いや、地域で活躍する人達を求めていこうということを考えている。生涯学習センターが掲げている目標と合致する部分が多くあるので、そこは情報を共有しながら、市民協働・福祉・生涯学習と、それぞれで動いている部分を学習で結びつけることが出来ればいいと思いながら、この計画を拝見した。

地区協議会の事務局長として、他の地区の事務局長と話す中で、生涯学習センターからの声がかかれば協働してみたいという話はある。市民協働推進課と情報を共有しながら、また、福祉総務課の地区別懇談会に生涯学習センターが関わっていないのも残念であるので、繰り返しになるが、市内の他のそれぞれの取組みについて「教育」を通じてつなげるということに、可能性を感じているところである。そのことによって各地域の地区協議会で、地域の課題を解決する人財を養成するということを目標にした学びの開催を出来るのではないかと考えている。

会長：今回の議論はこれくらいにして、その他次回の開催1週間くらい前までに意見のあ

る方は事務局に出されたい。

(2) 運営協議会のテーマについて

会 長：では、次の議題に移りたい。

年間を通しての議論のテーマを考えていく。一番多く委員の関心が寄せられたと思われる、「市民ニーズに沿った魅力ある講座作り」について話し合ってはどうか、と考えている。根拠としては生涯学習推進計画の資料のページで町田市が今後最も重点的に取り組むべき課題は何かということで「魅力的な講座やイベント、展覧会等を定期的で開催する」というのが高い頻度で市民の声として上がっている、今回のテーマとして、「魅力ある講座作り」というのはこのニーズに沿っているのではないかと考える。

委 員：推進計画について話し合わなければいけないわけではないのか。

委 員：討議するテーマの1つとして、推進計画についての話し合いにからめて、町田市生涯学習推進計画体系図の教育プランと重なる重点計画の部分から、第3期からの関連として、「3-1 地域の課題解決に向けた学習支援」について検討してはどうか。

委 員：そもそも、まだ変更は可能なのか。

会 長：12月の26日に作業部会が完結して、1月9日に検討委員会で部課長レベルで決定する。推進計画は3月には出来上がる。運営協議会のテーマは推進計画とは別に考えてよい。

事務局：推進計画だけをもって生涯学習センターの全てということではない。また、教育プランと重なるところは動かしにくい。

委 員：では、実際にはもう間に合わず、せいぜい「てにをは」の訂正くらいか？

事務局：教育プランと重なる部分以外ならまだ余地がある。

会 長：なかなか難しそうである。

委 員：教育プランがベースにあり、町田市生涯学習推進計画の体系図が大切であるということ。そして、それぞれに取組項目があることもわかった。しかし、ずっと生涯学習センターのベースは、市民大学とことぶき大学で、これらが2大柱だと思ってきた。それがどこにも当てはまらないということか。

事務局：市民大学等について数値目標につながるような拡大の方向が取れないので計画には載せていない。

委 員：予算が取れないので、という理由だと、それ以外の部分ではどうなるのか。私が気になったのは、11項目は全て「これまでの取組」の欄には新たなものはなく、「これまではこれくらいやってきたものを、これからはもっとこうするよ」となると、もちろん現状の予算内で出来るものもあるだろうが、予算は余計にかかる方向になるのだろうか。そうすると「財政状況」によってどこかに皺が寄るのではないだろうか。



全体のボリュームを考えて、市民大学とことぶき大学の2大柱は現状維持それ以外の部分はこれまでもやってきたが、更に重きを置くとなると、手一杯で、人員は減る方向にある中で、結果的に市民大学は縮小するのか、という印象を受ける。市民ニーズに合ったものを、という市民意識調査の結果で言えば、「市が主催するものに限らず、近隣で開催される講座やイベント、展覧会などの情報を幅広く収集し、提供する」と「魅力的な講座やイベント、展覧会などを定期的で開催する」の2つがこれだけ多いのだから、最もニーズが大きいところにまずは力を入れればいいのか。魅力あるイベントや講座は今でもいっぱいあって、倍率の高いものもいっぱいあるが、その講座を、よそから高い講師料を払って来てもらった講師ばかりではなく、講座を受けた人が講座の担い手になるような仕組み作りを、そして、それを地域だけでなく学校と結びつけるなどの仕組みを作っていく方法を検討するといいいのではないか。学校と生涯学習センターは年代差があつてなかなか結びにくい。ワンクッションあると小中学校とはつなぎやすいのかなと思う。

委員：高齢者が地域社会で活躍する仕組み作りや、若者との関わりの中で、生涯の教育というのは人生最後の方のためばかりではなく、前半から全部なのだと感じることもある。人生の前半の人達の教育をどうしていけばいいのか、人生の前半に、多くのお金を使う必要があるのではないかと、高齢者を支援しているからこそ感じる。

委員：市民ニーズとは何かということを考えるべきでは。

市民ニーズに沿った何かについて議論するように持っていったらどうか。そもそも生涯学習センターの認知度が低いのでしょうか？市民ニーズに合っていないからということになる。皆さんそれを感じていて、若者の思いも含めて考えるべきだ。

委員：地域向けにイベントをやると、参加者の多くである高齢者のニーズを拾って、高齢者向けに講座をシフトするとワーっと人が集まる。多くの人に参加していただいたという見せ方で言えば大成功ということなのだが、若い子達に集まってもらって地域を考えると本当に10人20人である。かかった費用に比べ参加者は10分の1になってしまうが、この人達から意見を出してもらって地域を考えていくというのはとても重要で、何人アクセスしたとか、何人受講したということになるとどうしても高齢者に偏ったものになってしまうと、子どもたちには生涯学習センターは関係のないところということになってしまうだろうか。

委員：市民ニーズに沿った、ということで情報発信の仕方も含めて全部そこに議論を集約してはどうか。

会長：講座づくりを広げると生涯学習そのものになる。市民ニーズに沿った生涯学習センターの推進といったようなテーマになる。

委員：8月に大和市の駅の近くにあるシリウスという施設を見学した。上階に生涯学習センターが入っていて2年もたたないうちに500万人もの来館者を達成したという。

行ってみると、椅子は900席もあって誰が来てもいい居場所となっていて、図書にも触れられる。驚くことに、中高生の数が本当に多かった。家にいるよりもどこにいるよりも、まずここに来てみようと思える所があると、若者はこんなに集まるのだ、と思った。そして、どこも参考にならないと思って帰ってきた。それは、あれだけ大きな施設を駅の前に構えられたとか、たまたま土地が空いたとか、市長の考え等、色々条件があるのだろうが、市の覚悟が違うと思ったからだ。ここ生涯学習センターも頑張ってくれている。学校に行っていない子が来て、カードゲームをやっていて、クレームが入っても抑えてくれているし、本来なら子どもセンターに行けばいいような子たちも来ているのは知っているが、何かもっとう、それだけじゃない『覚悟』を感じた。

委員：コラム記事にある、南町田の「まちライブラリー」は本を通じたコミュニティーをかなり大規模に作っていこうとしている。生涯学習センターは関わっているのか。

事務局：図書館が関わっているものである。

会長：それでは、次回からは「市民ニーズに沿った生涯学習センター事業の推進（案）」といったように広く取り上げて、その中にいろいろな課題を取り上げて皆で解決策を話し合っていきたい。

次回 12月18日(火) 午前10時～